

# 注 意 報

長崎県病害虫防除所長

令和6年度病害虫発生予察 注意報第6号

## 野菜類 チョウ目害虫(ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ、オオタバコガ)

1. 発生地域(対象地域) 県下全域

2. 発生程度 多

3. 注意報発令の根拠

1) 巡回調査おける発生状況

(1) ばれいしょにおける10月後期の巡回調査(20筆)の結果、株当たり虫数は、ハスモンヨトウで0.12頭(平年 0.01頭)、シロイチモジヨトウで0.08頭(同 0.01頭)、オオタバコガで0.08頭(同 0.01頭)と多かった。チョウ目害虫の食害発生圃場率は95.0%(同 49.4%)とかなり高かった。

(2) プロッコリーにおける10月後期の巡回調査(12筆)の結果、ハスモンヨトウの寄生株率は11.7%(同 1.7%)、発生圃場率は75.0%(同 24.2%)と高く、ふ化直後の幼虫や卵塊も多かった。シロイチモジヨトウの寄生株率は0.7%(同 1.1%)、発生圃場率は16.7%(同 18.8%)であった。オオタバコガの寄生株率は2.3%(同 0.6%)、発生圃場率は33.3%(同 12.5%)と高かった。

(3) いちごにおける10月後期の巡回調査(25筆)の結果、ハスモンヨトウの食害株率は4.1%(同 3.0%)、寄生株率は2.0%(同 0.7%)、発生圃場率は76.0%(同 49.1%)とやや高かった。オオタバコガの寄生株率は0.3%(同 0.0%)、発生圃場率は12.0%(同 2.4%)と高かった。

(4) にんじん、だいこん等の野菜類でもチョウ目害虫の発生を認めている。

2) フェロモントラップの誘殺状況

(1) ハスモンヨトウのフェロモントラップ(諫早市、南島原市)の誘殺数は、10月4半旬以降急増し、平年または前年より多く推移している(図1、2)。

(2) シロイチモジヨトウのフェロモントラップ(諫早市、雲仙市)の誘殺数は、諫早市で10月5半旬に減少したが、平年よりかなり多く、雲仙市では10月2半旬以降増加している(図3、4)。

(3) オオタバコガのフェロモントラップ(諫早市)の誘殺数は、10月4半旬に増加し平年並である(図5)。

3) 気象予報(福岡管区气象台、令和6年10月24日発表)によると、向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり、引き続き本虫の発生に好適である。

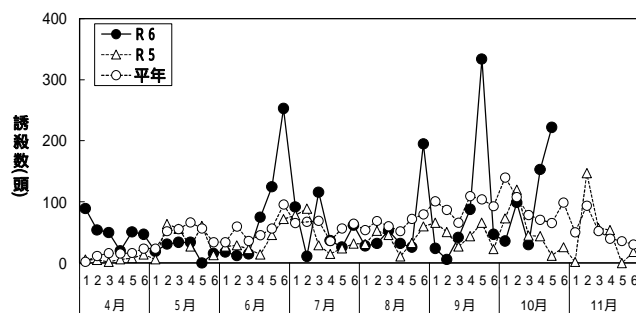


図1 ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況 (諫早市小船越町)

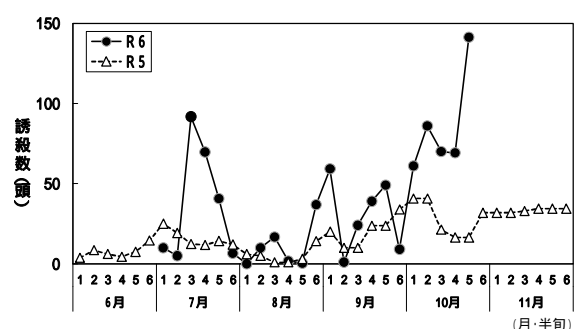
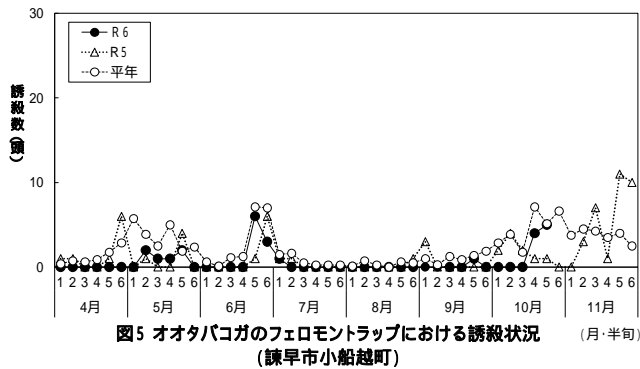
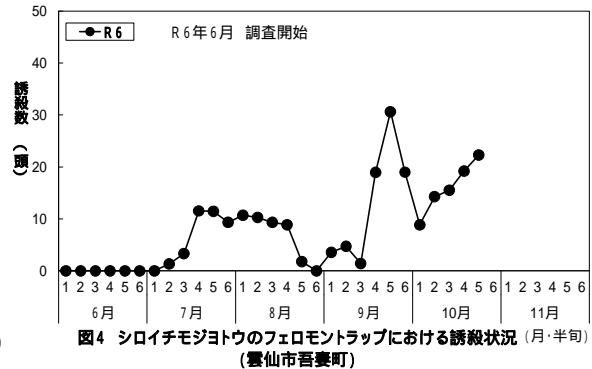
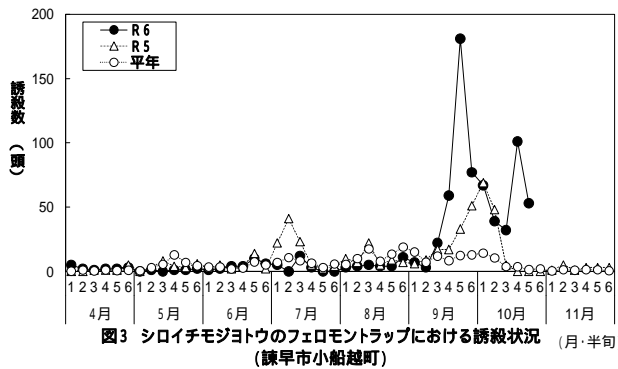


図2 ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況 (南島原市南有馬町)



#### 4. 防除対策

- (1) 発生は圃場間差が大きいので圃場の見回りを徹底し早期発見に努める。また、卵塊や分散前のふ化幼虫（ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ）は見つけ次第除去し、適切に処分する。
- (2) 幼虫は齢が進むと薬剤の効果が低下するので、若・中齢期に防除を行う。なお、薬剤は虫体によくかかるよう丁寧に散布する。
- (3) 施設栽培では、成虫の侵入を防ぐため開口部に防虫ネット（目合い4 mm以下）を設置する。なお、ハスモンヨトウはハウス資材にも産卵し、幼虫はネットをすり抜けて施設内に侵入することがあるので注意する。
- (4) 施設栽培では、外気温の低下後も施設内での発生が長引くことがあるので早期発見、早期防除に努める。
- (5) 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統薬剤（令和6年長崎県病害虫防除基準の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の連用を避け、ローテーション散布する。

長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室  
(長崎県病害虫防除所) ホームページ」アドレス

: <https://www.pref.nagasaki.jp/e-nourin/nougi/JPP/index.html>

この情報に関するお問い合わせ

長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室  
(長崎県病害虫防除所) TEL : 0957-26-0027

